

目的 顔面の色調と衣服の色調との関係を、客観的に見る目的で、適切な肌色のサンプルを求め、昭和43年より55年迄に計測した1,137人の女子大学生の色調のオレンジ系、ピンク系、小麦色系、オークル系より出現率の高い色調を選び、衣服の色との対比現象の実験の資料とした。衣服の色は最も基本となる三原色及び緑、茶の5色とし、これらは、今後の肌色と衣服の色の関係をみるための研究の足掛かりとするためのものである。

方法 1)実験色票の作成 縦26cm横109cmの明度2度の灰色のラシヤ紙に、縦13cmの赤青黄緑茶の有彩色色紙を空間9cmずつあけて貼付し、色紙の中央に3cm四方の肌色色票を5枚用意して貼付した。今回実験に供した肌色色票は5.0YRと7.5YRのグループで、各々出現率の高いものの内、明度彩度を考慮して3色ずつ選んだ。

2)実験の方法 対比現象の実験は、予備実験の結果視間距離を3m、7m、14mとし、実験の照度は450Luxとし、記録用紙に最も明るく見える色を記入させた。実験に参加した学生は大学1年56名、2年184名である。内正視220人、近視20人であるが、乱視は除外した。近視者の内、メガネ及びコンタクトレンズ使用者で正常視と大差ないものは正視とした。

結果 昨年度実験した2.5YRと10.0YRにつづき、本年は5.0YRのオレンジ系と、7.5YRの小麦色の肌色の実験を行った。何れも青が、肌色を美しく見せ、緑と茶色と赤が肌色を明るくすると答えたものもあった。視間距離については7mが観察し易いとする者91%であった。尚、青色と肌色の調和について心理的に実験を実施したが、報告は次回にゆずりたい。